

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
中国語Ⅱ（生活と文化） Chinese II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	講義	選択	( )	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
陳順和	本館3F	授業の開始前及び終了後		授業中に指示します
授業の概要				
1. 15のテーマで中国文化と生活を簡明に説明できる教材を使用する。 2. ビデオの映像によって、現場にいるような感覚で中国文化を体得し、中国人の生活について明確にする。 3. 先生が中国で撮った写真を学生に見せて、日本の新聞・テレビの報道より、よりリアルな中国の真実が分かる。 4. 先生が中国から持ち帰った雑誌とDVDを教材として使い、学生に中国の現物を直接触れさせる。				
授業の目標				
1. 中学校、高校の歴史教材だけではなく、もっと深く、もっと広く中国歴史と文明を要約することができるようにする。 2. 中国の世界遺産、故事成語、年中行事、料理、美術、住宅、ファッション、庭園、宗教、音楽、文字、文学、思想などを通し、中国の文化と生活をもっと探求することができるようにする。 3. 社会主義市場経済による中国人民の生活と価値観の変化を観察することができるようにする。				
授業の方法				
1. 主なものはビデオで各テーマを説明する。歴史、文明、世界遺産、経済発展、年中行事、ファッション、住宅、美術、建築、庭園、料理、などの面白いビデオが用意してある。故事成語はプリントとCDがある。思想、文学、宗教、文字、社会主義市場経済などはプリントで説明する。 2. ビデオ、プリントを見たり読んだりした後に、共同で議論する。先生の中国体験と中国で撮った写真も提示する。課題によって書かせて思考を導く技法、学生を相互に学ばせる技法、問題に取り組みさせる技法、授業時間外の学習を促す技法等で授業する。				
学習の成果（学習成果）				
1. 中国についての関心度を高めることができる。 2. 中国の真実を確認することができる。 3. 報道により形成された中国観をもう一度確認する力を養うことができる。 4. 複眼で中国の政治、経済、社会を見ることができる。 5. 中国の発展ぶりを検証し、卒業した後も自分で進んで中国を続けて観察する能力を身につけることができる。 6. 中国の文化を確認し、中国を楽しむことができる。自分の人生も二倍にすることができる。 7. 異文化理解、国際的教養を高めることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	中国の歴史、夏、商、周、秦、漢、唐から現代までの国家形成と現状			
第2回目	中国の古代文明、生きている文明			
第3回目	中国の世界遺産と現代生活（一）			
第4回目	中国の世界遺産と現代生活（二）			
第5回目	中国と日本の年中行事			
第6回目	社会主義市場経済と中国人の生活の現状			

第7回目	中国のインフラ建設と住宅事情 <レポート提出>
第8回目	中国の食生活（料理と茶と酒の文化）
第9回目	中国のファッションの進化
第10回目	中国の美術、工芸。古代から現代まで
第11回目	中国の故事成語と中国人の価値観（一） 歴史的背景
第12回目	中国の故事成語と中国人の価値観（二） 日本との比較
第13回目	中国の文字、象形文字から簡体字まで
第14回目	中国の建築、庭園と生活 <レポート提出>
第15回目	中国の思想（論語、荘子）文学、宗教、音楽、教育、社会と生活
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。

#### 成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	意欲的に授業を受ける。宿題をきちんと提出すれば20点を取れる。
レポート	80%	授業によってレポートを作成する。中国人の生活と文化についての知識レベルは高ければ80点をとれる（詳細に課題を探究し、着手すべきテーマの問題点に十分に注意を払っている）。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

#### 教科書と参考図書

プリントを配布し、参考図書を紹介する

#### 履修上の留意点・ルール

欠席、遅刻をしないこと、授業の居眠りなどが無いこと、きちんとしたレポートを書くこと。